

“経済の空間的ユニット”の進化

農業 : ローカル



工業化 : ナショナル
(ex. 鉄道敷設、道路整備、工場配置等)



情報化 (ポスト工業化) : グローバル



ポスト情報化 : ローカルから出発してナショナル、グローバルへ

ソーラーシェアの試み(千葉県匝瑳市、千葉エコ ・エネルギー〔学生発ソーシャルベンチャー〕)



新・分散型社会

・・・経済構造も分散型に

- デジタル化（オンライン、テレワークなど）
- 分散型エネルギー（再生可能エネルギー）
- 高齢化→医療・福祉分野の広がり
- 農業の新たな価値

情報から生命へ

科学の基本コンセプトの進化

● **物質** → **エネルギー** → **情報** → **生命 (life)**

17世紀

19世紀

20世紀

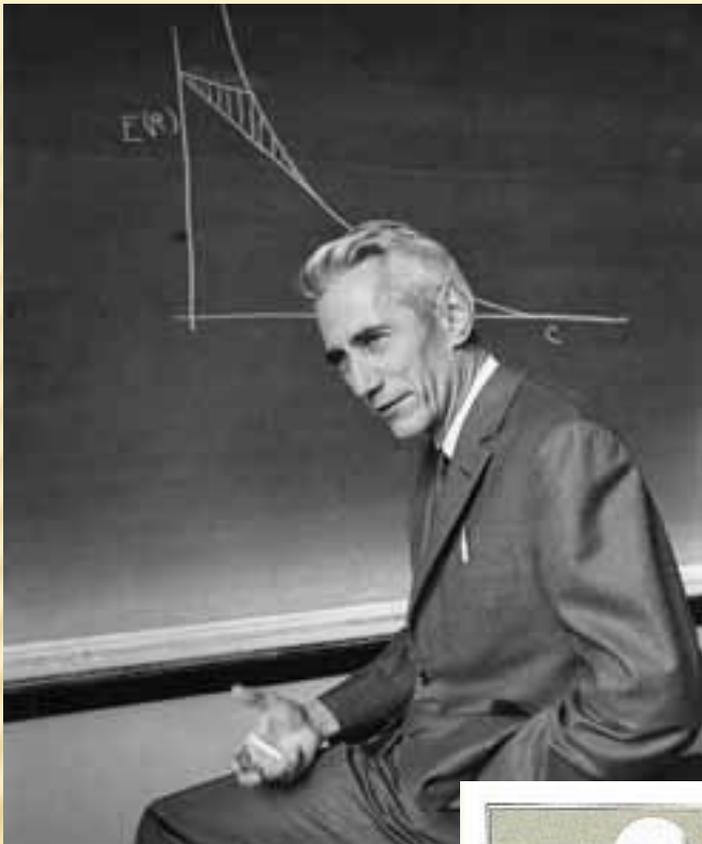
今後

科学革命

【消費の構造】

物質の消費 → エネルギーの消費 → 情報の消費 → **時間の消費**
〔現在充足性〕

情報理論の起源



- × クロード・シャノン
(1916–2001)
- × 「ビット」の概念
- × “0と1で世界のすべてを表現することができる”という世界観



ポスト情報化と 「生命」の時代

- 英語の「Life」・・・“生活”“人生”といった意味を含む。
- また、マイクロレベルの生命のみならず、生態系（エコシステム）、地球の生物多様性、持続可能性といったマクロの意味も。
- こうした包括的な意味の「生命」が、「ポスト情報化」時代の科学や経済社会・生活・消費の基本コンセプトに。
- 今回のコロナ・パンデミックはこうした方向を象徴的に提起。

「生命」関連産業（生命経済） の重要性の高まり

- 健康・医療
- 環境（含 自然エネルギー）
- 生活・福祉
- 農業
- 文化

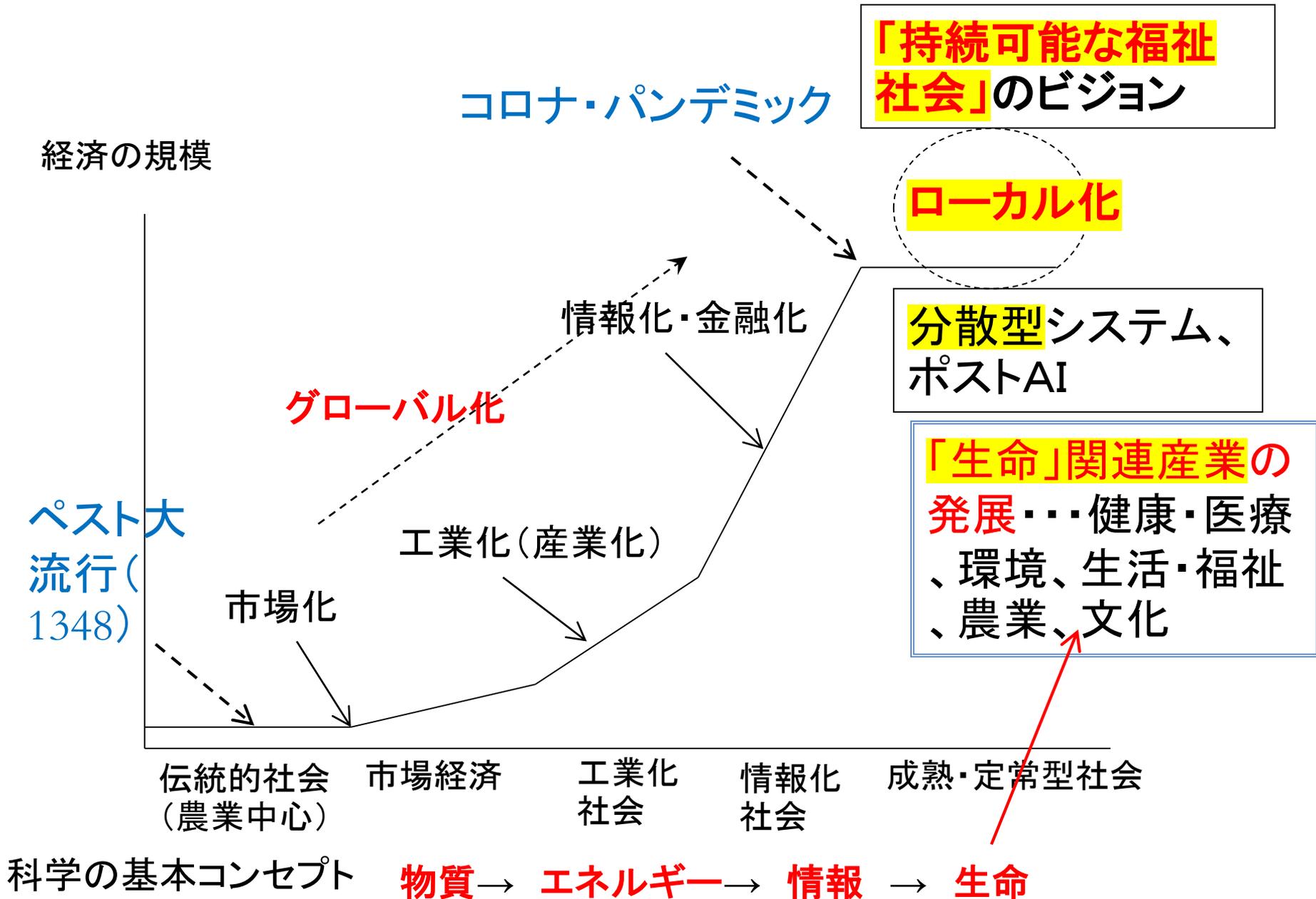
cf.ドイツのメルケル首相“文化は生命維持に不可欠”

***これらは概して小規模で「ローカル」な性格**

「デジタル」はあくまで“手段”

生命関連産業など他の産業分野との
連携・組み合わせが重要。

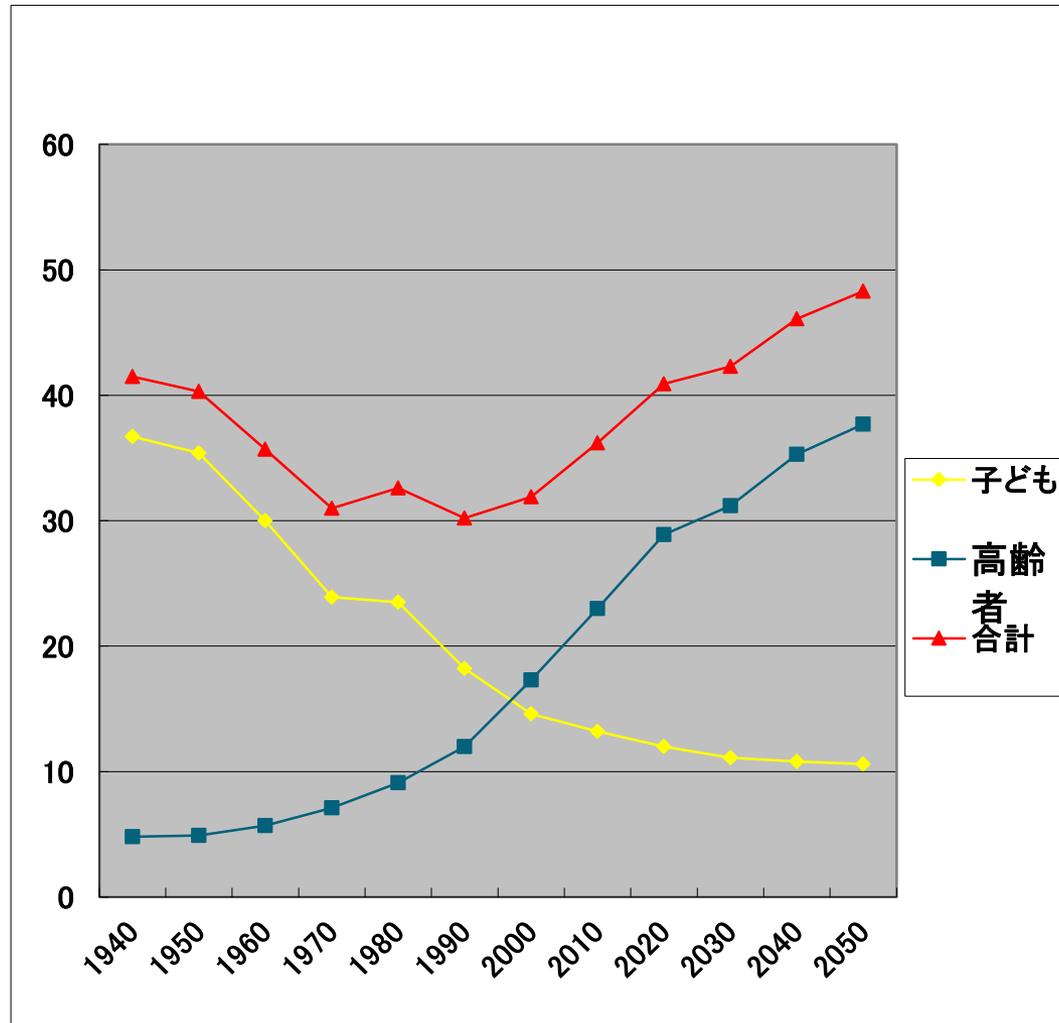
経済システムの進化と新型コロナ・パンデミック



4. コミュニティとまちづくり

「地域密着人口」の増加

人口全体に占める「子ども・高齢者」の割合の推移(1940-2050年)



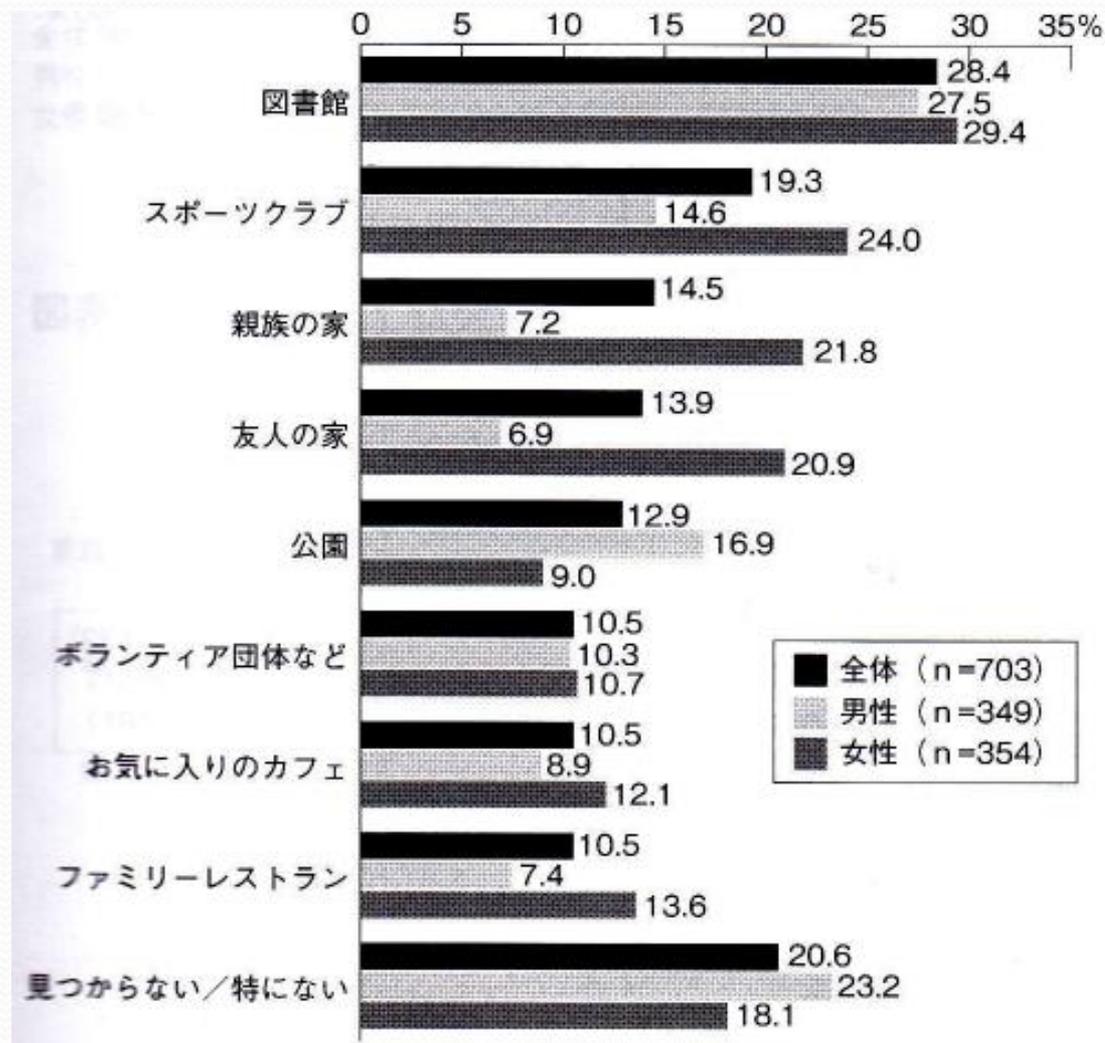
(注)子どもは15歳未満、高齢者は65歳以上。

(出所)2010年までは国勢調査、2020年以降は「日本の将来推計人口」(平成29年推計)を基に筆者作成。

ひとり暮らし高齢者の急速な増加 1995年⇒2015年

- 男性:46万人から180万人に (3.9倍)。
 - …134万人の増加。
- 女性:174万人から383万人に (2.2倍)。
 - …209万人の増加。

退職後の居場所：「あなたは自宅以外で定期的に行く居場所がありますか。」…首都圏に住む60～74歳の男女1236人へのアンケート調査(複数回答)



福祉政策とまちづくり・都市政策をつなぐ

- ヨーロッパなどの街・・・高齢者がごく自然にカフェや市場などでゆっくり過ごす。
- 日本やアメリカの街・・・圧倒的に“生産者”中心。
- 高齢者等がゆっくり過ごせるような場所が街の中にあることは、ある意味で福祉施設や医療施設を作ること以上に重要な意味を持つのではないか。

中心部での自動車規制と「歩いて楽しめる街」 (エアランゲン〔人口約10万人〕) →街のにぎわいと活性化にも。



中心部での自動車規制と 「歩いて楽しめる街」(フランクフルト)



中心部での自動車規制と「歩いて楽しめる街」(ドイツ・ザールブリュッケン[人口約18万人])



歩行者空間と「座れる場所」の存在 (チューリッヒ)



高齢者もゆっくり楽しめる 市場や空間(シュトゥットガルト)



高齢者もゆっくり楽しめる 市場や空間(フーズム〔人口約2万人〕)



歩いて楽しめるまちづくり 「ウォーカブル・シティ」

「**コミュニティ**空間」を重視した
まちづくり・地域づくりへ

ハノーファー： インダストリー4.0（第4次産業革命）～“IoT”のメッカの一つ





Sparkasse

Hugendubel

BÜCHER
BOOKS
Hugendubel
Die Welt

H&M

H&M

O2

HUAWEI P30 PRO

PERFEKT
DEINE

WÜBLICH

“人間の顔をしたスマートシティ”

日本の地方都市の現状

人口20万人以下の都市はもちろん、30~40万人規模の都市ですら空洞化(シャッター通り)



和歌山市(人口約37万人)
の中心市街地



今治市(人口約16万人)
の中心市街地

視点と課題

- 日本の都市は、高度成長期を中心に**圧倒的に「道路中心」**に作られてきた。 ← **アメリカの都市**をモデル
- “**歩いて楽しめる街**”は、本来は高齢化とは無関係に「都市」本来のあり方として実現されていくべきもの。
- しかし日本の場合は、高齢化への対応が社会全体の重要課題として認識される中、**高齢化をチャンスとして**“コミュニティ空間という視点を重視した、歩行者中心の街”を実現していくべき。

香川県高松市：丸亀町商店街



・商店街と高齢者向け住宅等を一体的に整備し「福祉都市」的な性格をもつとともに、納税を含めヒト・モノ・カネが地域で循環する地域内経済循環を目指す。



姫路市駅前：歩行者と公共交通のみの 「トランジットモール」化



一極集中から「少極集中」をへて 「多極集中」へ

- 他方、札幌、仙台、広島、福岡等の人口増加率は首都圏並みに大との指摘〔2010→2015年の人口増加率：東京23区3.7%、札幌2.1%、仙台3.5%、広島1.8%、福岡5.1%〕
- →現在進みつつあるのは、「一極集中」ではなく「少極集中」とも呼べる事態ではないか。(プラス一部の農山村等の人口増)
- これから先、「一層の少極集中」に向かうか、「多極集中」に向かうかの分岐点。→様々な**公共政策**の重要性(ex.まちづくり、公共交通、農業版BI・地域若者版BI等の再分配政策etc)

(参考)

商店街空洞化・耕作放棄地に共通する課題

- 共通しているのは「**ストック**」の**承継**問題。(& 土地問題)
- → 根本にあるのは日本における「**家族主義**」(家族内の承継がなければそれで閉じてしまう)ではないか。
〔イタリアなど南欧も似〕
- 公的部門、民間企業を含む第三者がこうした承継を仲介・**コーディネート**する事業・機能が求められている。
 - ・・・「**家族を超えた承継・つながり**」の創出。

「エリアリノベーション」という手法を通じた商店街再生 (東京R不動産、荒川区西尾久) → 東京都も支援

198
東京を泳ぐ
Enjoy
Tokyo
Hiko o local

商店街を軸に、
まちをおもしろくしていく!

東京・荒川区の 下町で始まった、 「ニューニュータウン西尾久」 プロジェクト。

商店街ならではの、ほどよく外に開かれた歴史を
活かし、まちそのものを、住む人や来る人にとって、
楽しく、人のつながりを感ぜられる場所にしていく。
「東京R不動産」が、東京・荒川区の下町にある商店街を
舞台に始めた「ニューニュータウン西尾久」プロジェクトは、
暮らしのなかに「楽しむ」を生み出すプロジェクトです。

photographs by Yusuke Abe
text by Sumika Hasekawa

「ここセンター」は、新築ビル
と既存のビルを、両者が
にぎやかに共存する「ダブル
ビル」のモデルビルとして、
2019年10月に竣工した。写真
撮影：山崎 浩二さん、山崎
浩二さん、山崎浩二さん。





「Cariaage」エリア、全国に拡大中！
Cariaageローカル

全国の空き家のご相談に対応いたします。
 Cariaageのしくみを使った空き家活用に
 興味をお持ちの事業者も募集しています！

[もっとみる](#)



空き家活用・事業承継に関する 情報サイトとの連携



空き家の管理・賃貸活用・売却

Cariaage

[空き家の総合相談窓口](#)



空き家活用のアイデアに出会う

Cariaage

[空き家再生活用マガジン](#)

Cariaage

空き家再生活用マガジン






事業承継をオープンに。クラウド継業プラットフォーム

キーワードを入力して検索

[ログイン](#) [登録](#)

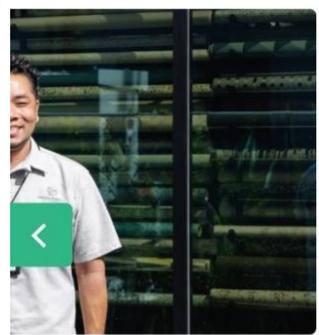
後継者募集案件

成約済み案件

事業承継ストーリー

relayについて

[後継者を募集する](#)



「良かった」倒産寸前
 長年の挑戦

Uターン



北海道 ① 募集締切まであと 36日 24時間以内に189人が閲覧していま
 復活を求める声多数！40年以上に渡り江部乙の食
 を支えてきたマルイチ米店の承継者を募集！

#後継者募集 #米屋



ご不明な点はございますか？

を募集！

#後継者募集 #不動産

5. 若者支援と 「人生前半の社会保障」 の重要性

国連「環境と開発に関する世界委員会」報告書
「われら共通の未来 OUR COMMON FUTURE」
(ブルントラント委員会報告、1987年)

**OUR
COMMON
FUTURE**

THE WORLD COMMISSION

ON ENVIRONMENT

AND DEVELOPMENT

× 「**持続可能な発展**

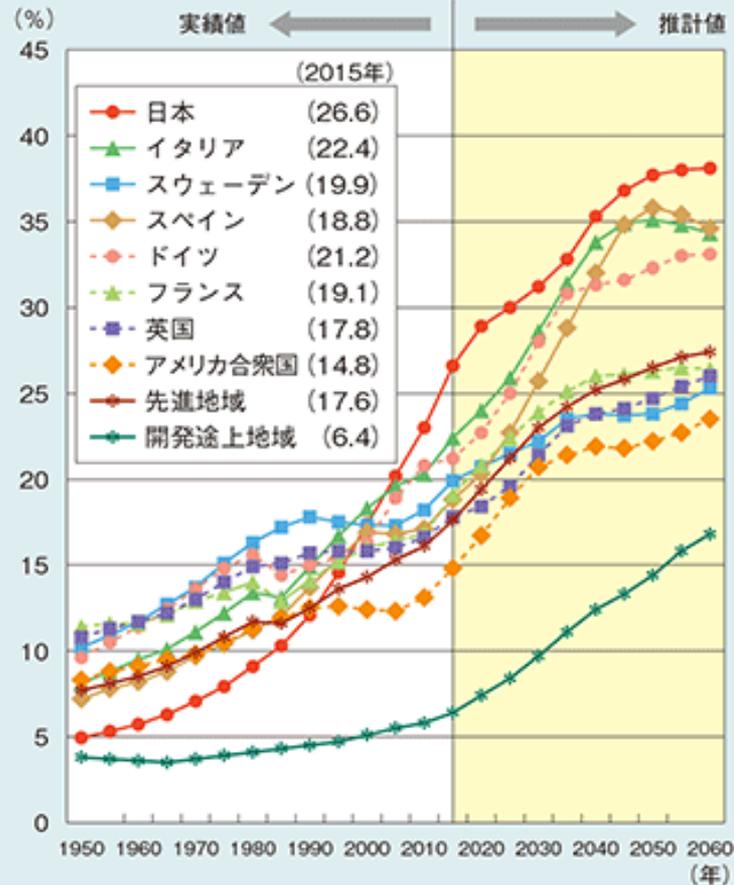
sustainable
development」 =

「**将来世代**のニーズ
を満たす能力を損な
うことなく、**今日の
世代**のニーズを満た
すような発展」

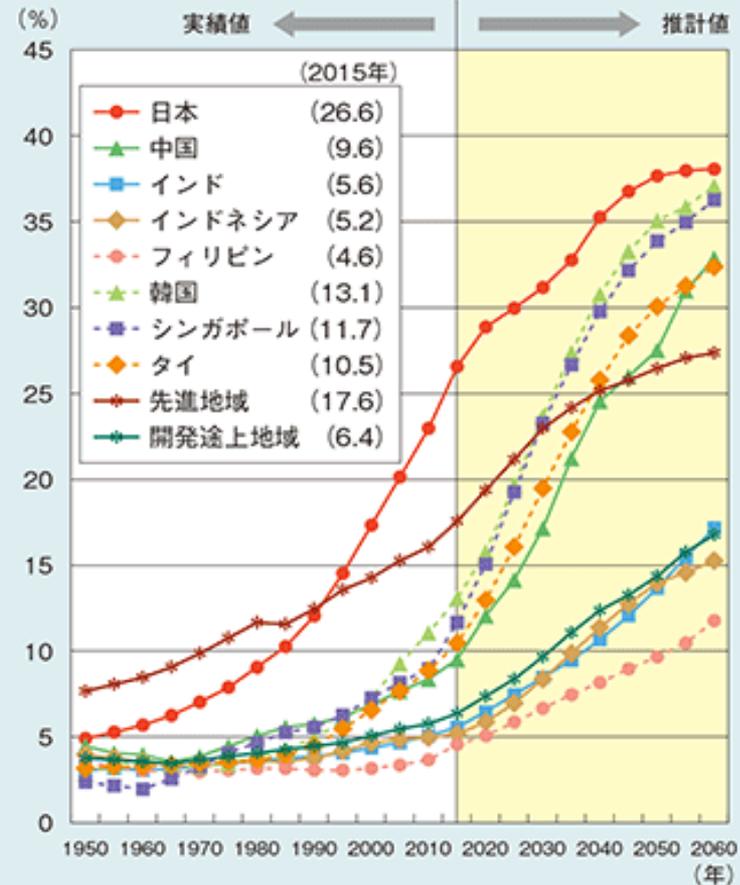
高齢化の推移：国際比較

図1-1-13 世界の高齢化率の推移

1. 欧米



2. アジア



資料：UN, World Population Prospects : The 2015 Revision

ただし日本は、2015年までは総務省「国勢調査」

2020年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成29年推計）」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果による。

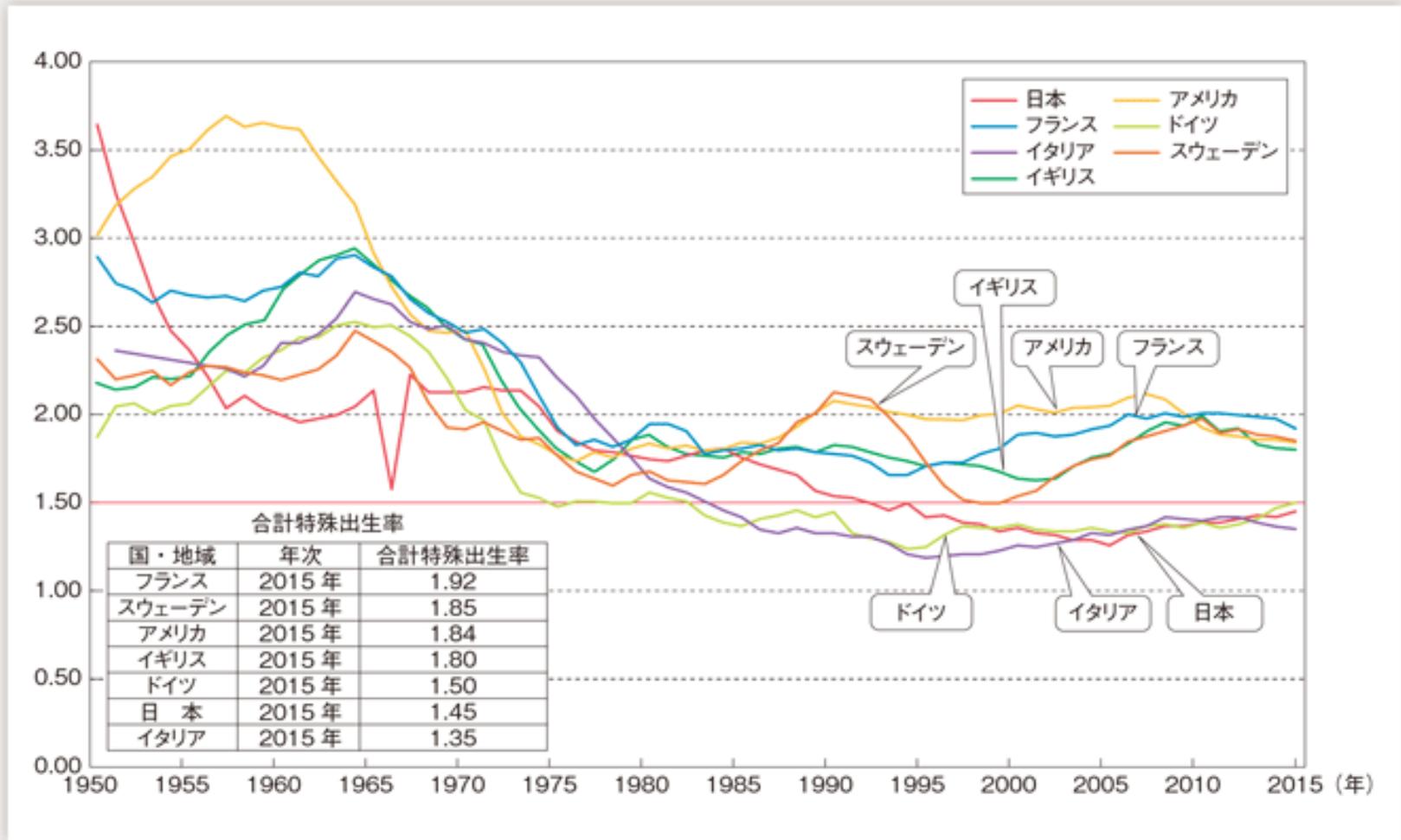
(注) 先進地域とは、北部アメリカ、日本、ヨーロッパ、オーストラリア及びニュージーランドからなる地域をいう。

開発途上地域とは、アフリカ、アジア（日本を除く）、中南米、メラネシア、ミクロネシア及びポリネシアからなる地域をいう。

高齢化と少子化をめぐる認識

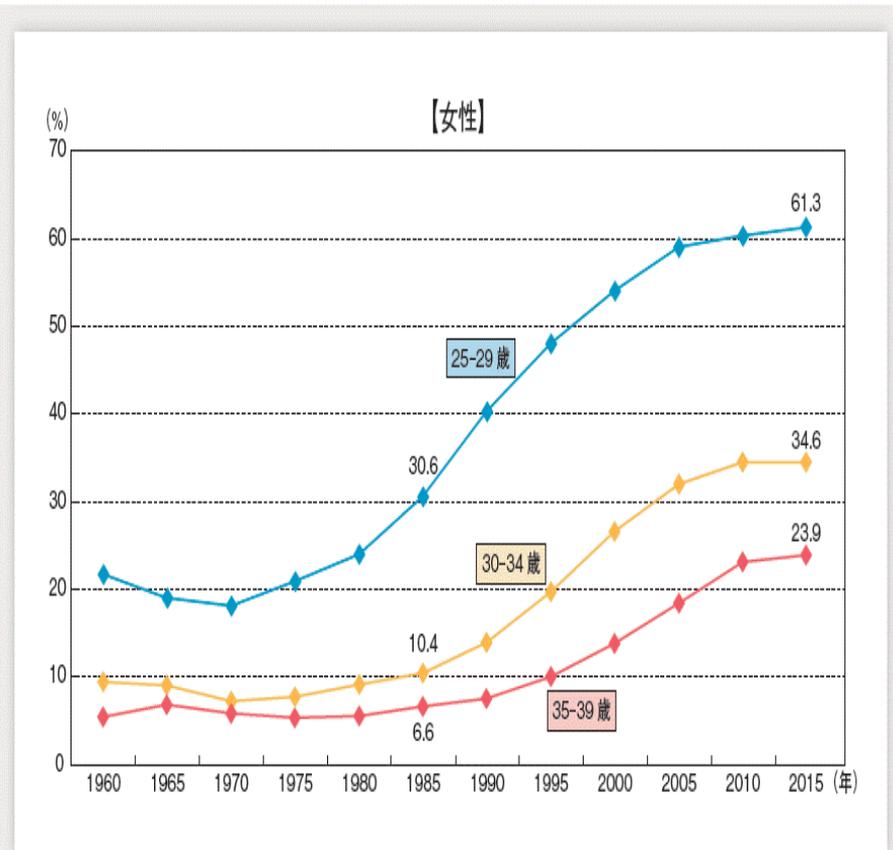
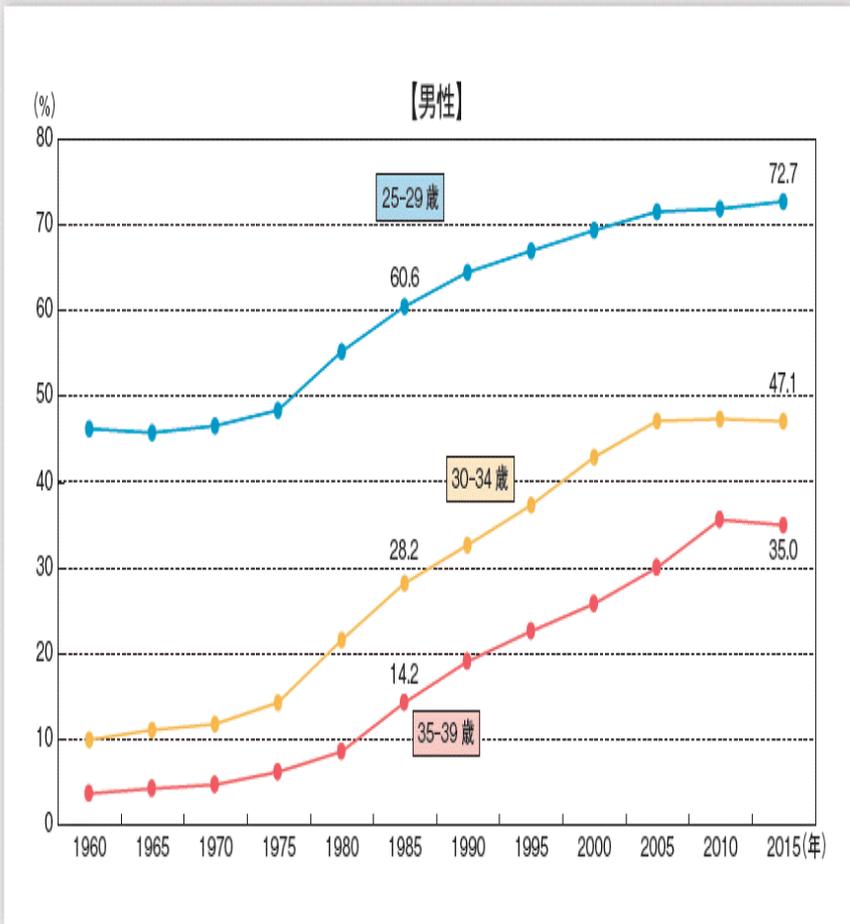
- 日本の高齡化率が特に高くなっていくのは、長寿が要因ではなく、少子化が大きな要因。
- (同様なのがイタリア、スペイン、ギリシャ、ドイツなど)
- 少子化の要因
- ①未婚化、②晩婚化、③夫婦の子ども数の減少のうち、③は大きくない。 →“ハードル”は結婚の前にある。

少子化(合計特殊出生率)をめぐる 国際比較



資料：1959年までUnited Nations “Demographic Yearbook”等、1960年以降はOECD Family database (2017年5月更新版) 及び厚生労働省「人口動態統計」を基に内閣府作成。

年齢階級別未婚率の推移



資料：総務省「国勢調査」

注：1960～1970年は沖縄県を含まない。

若者支援の重要性

→人口減少の改善や経済活性化にも寄与

- 社会保障全体のうち、高齢者関係給付が約7割を占める。
- 日本においては子ども・若者等への支援(=「人生前半の社会保障」。含教育)が国際的に見てきわめて低。
- 20代の生活保障や所得水準は、結婚ひいては出生率にも大きな影響 (ex. 年収300万の分岐)
- その強化は、「人生における“共通のスタートライン”の保障」に資するとともに、経済活性化にもプラス。
- **教育、雇用、住宅、移住等、あらゆる分野における支援強化を！**